

福祉を解す



現在の福祉施設、特に高齢者施設はひっ迫している。また施設特有の孤立感がある。これからの日本はきっと福祉施設を専門家（介護士、看護師、機能訓練士など）だけでは担うことは難しくなると考える。本設計は、**公園に公民館＋専門家で担っていく福祉の場**を提案する。福祉の施設感、ハードルの高さ、負担を解す未来の福祉の在り方の一つである。

解し方

担い手：「専門家」→「公民館＋専門家」

場所：「施設」→「分棟化した公民館＋公園」

利用者：「被介護者のみ」→「被介護者＋散歩者＋休憩者＋ α 」

解し方

担い手: 「専門家」→「公民館+専門家」

場所: 「施設」→「分棟化した公民館+公園」

利用者: 「被介護者のみ」→「被介護者+散歩者+休憩者+ α 」

数値化した3つのグループで機能・空間性が類似する内容を繋ぐ。繋いだ内容の平均値を出して、のちの提案に使用する。

①

くつろぐおばあさん

散歩にきた親子

②

歩行練習をするおばあさん

百歳体操をするお年寄り

親子

＋保育園	セーニング喫茶 ＋昼食	セーニング喫茶 ＋機能訓練	＋学童保育	
[50%]	[67%]	[67%]	[0%]	[0%]

＋専門家 100%					＋?
健康チェック	泊まる	生活介護	お風呂	トイレ（介護）	住む?

③ お風呂の横で子どもたちを
眺めるおじいさん

謎のポーズで盛り上がる二人の

4

「泊まる」の外階段からの展望台から見渡す少年

散歩中のおじいさんと介護士さん

ローバー

子たちとおばあさん

